



三瀧寺の紅葉（広島市）

いのちを尊ぶ、祈りの秋

秋深まる時節、豊かな自然に抱かれた郷土・広島も、各地で紅葉が始まりつつあることでしょう。

しかし、8月に安佐北区・安佐南区を襲った土砂災害では、自然の猛威を思い知らされました。亡くなられた多くの方々に哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

東京広島県人会は、広島市長宛てにお見舞い状とお見舞金を届けました。

今後もできる限りの支援を続け、一日も早く被災された地域に安穏な日々が取り戻されることを願っております。

ヘッドライン

榮久庵憲司先生 国際功労賞 P.2

新連載「広島の百年企業に学ぶ」
第1回 株式会社サタケ P.4

マツダスタジアム
カープ観戦レポート! P.7

穂高健一著 『二十歳の炎』 P.10

東京ふるさと就職情報コーナー P.14



平成26年度 春季役員懇親会

5月23日、東京広島県人会「春季役員懇親会」が、東京ドームホテル「天空の間」にて開催されました。

大竹美喜会長は、東京広島県人会の一層の発展をめざして抱負を述べられました。湯崎英彦広島県知事は、地元での自動車産業や造船業における経済の活性、カープやサンフレッチェの活躍などの明るい話題を挙げながらお祝いのご挨拶をされました。

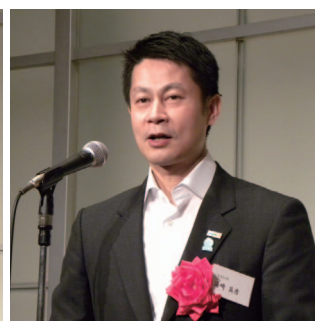
「瀬戸内しまのわ2014」のイベントPRや「ザ・広島ブランド」の新認定品など、旬な情報もさまざま紹介。広島の地酒やワイン、お好み焼きに尾道ラーメンなど、故郷の美酒佳肴を味わいつつ、そこかしこに和やかな笑顔が咲き広がる盛況ぶりでした。

また、4年間県人会幹事長を務められた江崎正行さんに感謝の辞と花束が贈られました。

会場にお集まりいただいた皆さま、ご協賛・ご協力いただいた皆さまには厚く御礼申し上げます。



大竹美喜会長



湯崎英彦広島県知事



ご挨拶される江崎正行前幹事長



榮久庵憲司先生がコンパッソ・ドーロ 国際功労賞を受賞

緒方 静子

東京広島県人会常務理事で、世界的なインダストリアルデザイナー、榮久庵憲司先生（GKデザイングループ会長）が、欧州で最も古く影響力のある国際デザイン賞の、コンパッソ・ドーロ国際功労賞を6月に受賞されました。榮久庵先生の受賞理由は、日本のインダストリアルデザインの規範となる業績と、国際インダストリアルデザイン団体協議会に対する熱心な支援という、生涯にわたる功績が讃えられたものです。今年同じ賞には、アメリカのアップル社、イタリアのジョルジョ・アルマーニ氏なども選ばれています。

榮久庵先生は、東京芸術大学でデザインを専攻した後、インダストリアルデザインの道に進み、ヤマハのオートバイ、キッコーマン卓上醤油瓶、成田エクスプレス等をデザインするなど日本だけでなく海外でも大きな活躍を続けておられます。この県人会ニュース46号でも昨年東京の世田谷美術館で開かれた、榮久庵先生のデザインの世界を紹介した展覧会の記事を掲載しました。

榮久庵先生は、今回の受賞について東京広島県人

会にもメッセージを送っていただきました。

「学生時代から存じ上げていた賞だけに、思いもよらない受賞に正直戸惑いと、また大変栄誉なことに感じています。賞の対象は、私のこれまでの活動を評価していただいたようですが、これからもこの賞に恥じぬようデザインの振興活動に一層力を注ぎたいと思います。アジアにおけるデザインのポテンシャルは高いと信じています」

榮久庵先生のこれまでの軌跡を紹介した「榮久庵憲司の世界展」が広島県立美術館で、今年の11月18日（火）～12月23日（火・祝）の日程で開催されます。是非どうぞ！



授賞式での榮久庵先生(左から2番目)



A4用紙で世界に挑む! 福山市

福山市には世界に誇るギネス世界記録の保持者がいるのをご存知でしょうか。金属精密部品メーカーキャステム（福山市）の社長・戸田拓夫さんです。折り紙ヒコーキ協会会長も務める戸田さんは、折り紙ヒコーキのギネス世界記録保持者なんです。

戸田さんが持っているのは室内滞空時間の世界記録で、記録はなんと！29.2秒！！ギネス世界記録TMのルールは①A4サイズ以下の紙を用いる ②紙を切ることは自由。切った紙は貼り付けできない ③幅2cm×長さ3cmまでのテープ止めは可などです。戸田さんは紙を切ったりテープ止めはせず、紙1枚を折っただけ＝折り紙ヒコーキというこだわりのもと、翼の面積をできるだけ広げて滞空時間を延ばしました。翼を広げすぎると強度が失われるので折り方を工夫し、デザインにも気を配っています。飛ばし方も重要で、真上に向かって思い切り高く投げ上げるようにしました。

これまで700以上のデザインを考案し、2001年には福山市の本社近くに紙ヒコーキ博物館を開設しました。また、国内・海外でのイベントや講演を通して、折り紙ヒコーキが持つ魅力の伝道に尽力しています。

「最初からよく飛ぶ折り紙ヒコーキは最終的な記録が伸びない。また、記録が伸びる折り紙ヒコーキは飛ばすのが難しい。一つのことをやめずに続けていく熱意が結果につながる」という戸田さん。最近では、気象観測用の気球を使って高度3万メートルからの折り紙ヒコーキ飛ばしに成功しました。

戸田さんの現在の目標は、折り紙ヒコーキ世界大会の開催とスペースシャトル型折り紙ヒコーキを宇宙から地球へ帰還させること。どこにでもあるものから無限の可能性を引き出し、世界さらには宇宙へ挑む戸田さんの活躍に、これからも目が離せません！



戸田拓夫さん



広島市育ちの作家、和田竜氏が『村上海賊の娘』で 「吉川英治文学新人賞」「本屋大賞」を受賞！ 緒方静子

和田氏は昭和44年大阪で生まれ、直ぐに広島市安佐南区で育ちました。市立の川内小学校、城南中学校と学び、2年の時に東京に引越。女優の綾瀬はるかさんとは小中学の同窓でした。「竜」という名前は坂本竜馬が好きだった母親が名づけたそうです。早稲田大学時代に司馬遼太郎の「竜馬が行く」を読んで歴史に興味を抱きました。

卒業後、番組制作会社や繊維業界専門の新聞社で働き、その間創作活動を開始。平成19年11月、オリジナル脚本『忍ぶの城』を小説『のぼうの城』として出版。同作は、累計200万部を超えるベストセラーとなり、平成24年に映画化されました。

そして、小学生のころ家族で訪れた因島で知った村上水軍を題材にして、小説4作目となる『村上海賊の娘』を今年出版。「第35回吉川英治文学新人賞」と「2014年本屋大賞」を受賞しました。

和田氏の作品は明瞭で痛快にテンポよく進むため、“ニューウェーブ時代小説”の旗手として注目を浴びています。和田氏からは、東京広島県人会に次のようなメッセージが寄せられました。

「少年時代を過ごした広島と、小説を通して再び関わりを持たせてもらうことができ、とてもうれしく思います」

時代小説の新しい潮流の先頭を走る和田竜さん。これからも注目します。



和田竜氏(写真提供／新潮社)



「村上海賊の娘」(上下巻／新潮社刊)

《新連載》 広島 の百年企業に学ぶ

第1回 (株)サタケ

●取材・文／津川博光

創業118年精米技術から「食」の世界ブランドへ

日本企業を取り巻く環境は、世界との熾烈な競争で年々企業の生き残りが厳しくなっております。あるデータによると、事業を起こして5年以上生存している事業は15%、10年後はなんと5%、そして100年以上続く事業はわずか0.03%しかないそうです。

そこで、広島県で100年以上続いているグローバル企業取材して、企業継続のヒントを得るという新企画をスタートすることにしました。第1回目は、本社が東広島市にある(株)サタケを訪問し、佐竹利子代表にお話を伺いました。

(株)サタケ 会社概要

創立は1896年(明治29年)、日本で最初の動力式精米機を初代佐竹利市氏が考案し、2代目利彦氏が「精米機のTOPブランド」を確立。3代目覚氏が、グローバル化により国際販路を拡大し、世界の食文化に貢献。118年に亘る研究開発は、穀類加工調整技術分野で世界トップ。海外11カ国にグループ企業を有し、約150カ国に輸出している。また開発した技術は異分野でも脚光を浴び、色彩選別機は自動車メーカーに、高始動特性モーターは東北新幹線をはじめとした鉄道車両や六本木ヒルズ等の高層ビルの非常用発電設備に使用。現4代目利子代表は主婦目線で「マジックライス」「GABAライス」等食品の画期的な開発販売を開始。蓄積した技術力と卓越した先見性で東広島市から世界への快進撃が続く。



株式会社 **サタケ**



佐竹 利子 代表

(株)サタケの企業理念をお聞かせ下さい

「人と食材の関わりの中で、常に新しい価値の創造を行い、一人ひとりの夢の実現を支援させていただく」というのが基本的な経営ビジョンです。これを成し遂げるために、①不可能はない②謙虚であれ③気のつく人になれ、という3つの精神＝サタケ精神(サタケ・スピリッツ)が受け継がれています。それぞれの意味は、①＝自分の知っていること、学んだことはほんの僅かなことなので、それを理由に「できない」とは言わないようにしましょう、②＝少しの自信は持ちながらも、知識や技術は無限大なものなので、それをしっかり学ぶためには自分に謙虚さが無いといけない、③＝「おもてなし」という言葉と同様、相手の気持ちや要望に気がつく人になれるということです。私自身いつも3つの「サタケ精神」を経営の指針として実践するよう心がけています。

定評ある商品開発力のポイントとは？

必ずしも多数の人が望むことを優先し、開発する訳ではありません。一人の意見を取り上げて開発したという事業テーマが沢山あります。これはオーナー企業の特長だと思います。又、短い期間で結果を求めるということをしません。

この姿勢は、サタケに代々受け継がれています。むしろ少数意見でみんなが「難しい」ということに挑戦しようとしています。全てがそうではありませんが、テーマが10あればその中の2つか3つ挑戦テーマを採り入れるよう心がけています。最終的には私が自分の眼で見て、自分で商品を使ってみる。第三者がみても「これなら使える。大丈夫」だと納得される“もの作り”を目指そうと言っています。

もう一つ重要なことは「この人や企業がすごい」と思ってもマネしないことです。優れた人のマネをするのではなく、その人から基本を教えてもらうことが重要で、この基本のうえに自分たちが最も得意とし、やり易い独自のものを構築すれば、自分たちにしかないものができる。それが一つの企業の形になっていけば最高だと思います。基本に立ち返れば、必ず誰にでも使えるものができ、その上に技術的なことが加味されていけばよいのです。基本がないのに専門的なものを追い求めると、中途半端なものになってしまいます。

画期的なお米の開発！ その開発秘話とは？

いつもどうすれば「おいしく食べられて、皆さんがもっと元気になれるか」を考えておりましたが、正直「難題」でした。でも“不可能はない”という「サタケ精神」で特別プロジェクトを立ち上げました。

7～8年前に、生きているお米がどのように変化していくのかを勉強し直すことにしたのです。その過程の中で新たな発想や気づきがありました。

一つ目はお米に目を覚まさせてみよう、すなわち玄米を発芽させるという発想です。叩く、温かくする、水を飲ませる、のいずれかをやると、玄米は目を覚まし胚芽から根と芽が出て、その時に大きな変化—グルタミン酸という成分が健康や機能増進に役立つと言われている「γ-アミノ酪酸（通称GABA）」に変化し、この量は、白米の約10倍になるということを発見したのです。

二つ目は、私が炊飯している時に「おかしい」ことに気づきました。水の中にお米を入れて、暫く放っておくと、お米が水を吸っていく過程で色が変わり、水の量が変化するのです。胚芽や皮の中にできたGABAが水に溶けて、米の中を移動することを見つけたのです。つまり、白いお米の中に胚芽や皮から水を移動させることで必要な成分を中に封じ込めることができた結果、白米でありながら、胚芽や皮

の成分が中に移動できた米＝GABAライスが誕生しました。今では、ほんの数時間で粳の状態からすぐにGABAライスを作ることが可能になりました。



GABAライスで作られたさまざまな製品

百年企業の秘訣とは？

現状維持はしなかったという点です。しようと思えば、周りは前進・進歩しているのですから、企業は縮小してしまいます。わが社は、加工設備、プラントを主に企業や団体に販売している企業ですが、それを使って加工された穀物を食べている皆さますべてが本当のお客さまという考えを継承してきました。マザー市場である日本で「安全・安心・美味・健康」の技術や考え方を確立し、それぞれの国に求められる形でご提供すれば必ず満足していただけるはずです。また、「信じて用いる」＝信用という言葉は当たり前。「信じて頼る」という信頼という言葉を使ってもらえる役員や社員でありたいと願っています。

代表が常日頃社員に伝えていることは？

「一人三役」です。自分の役割を勝手に決めつけることなく、何事にも柔軟に対応して参りたいと考えています。また会社においても、営業、生産、技術、管理と様々な部門が存在していますが、自部門の専門知識だけではなく、サタケのことは何でも分かるようになって貰いたいと日頃から言い続けています。一人三役を実践することによって、自分自身の可能性が広がると共に、時間の面からも効率的になると信じています。

変えてはいけないものと変えるべきものとは？

サタケにとって基本のビジョンとサタケ精神は普遍的なもので変えることはありません。さらにわが社の経営の原則は無欲だということです。変えるべきものは、過去の経験ではなく、これからの未来です。「今までこれができるで良かった」という過去の話に囚われず、これから何をご提供すべきかを常に追い求めていくことです。イノベーションはわが社の社会的責任でもあります。

(株) サタケがこれからめざすビジョンとは？

現在、日本の第一次産業は就業人口の減少や高齢化など多くの問題を抱えています。これを再構築し、人間にとって不可欠なお米を中核に、新しい仕事と価値を創り出そうという取り組みを推進しています。

広島県の中央に位置する「豊栄（とよさか）」という町にわが社の工場があります。従来の仕事を半分程度にして、この場所を中核に豊栄の豊かな自然を最大限に活用し、住んでいる人たちが元気になってもらおうと循環型農業の実践モデルを構築しています。いわゆる6次産業ですね。一地区がひとつの国のように自給自足が出来て、住んでいる皆さんが元気で新しい仕事ができる。そしてそこに居住する人々が「豊かな心」をたくさん持てるような地域ができあがっていければと考えています。段々畑で作られているお米がもの凄く美味しい。だからこそ生かしたい。第一次産業が栄えるような新しいやり方を構築し元気で長生きができる社会を実現する、そして穀物を通して日本のみならず世界の食文化に貢献していくことが、わが社の目指すビジョンです。

サタケのGABAライス製品セットを
抽選で20名様にプレゼント！

くわしくは本紙15ページをご覧ください。



GABAライス製品は、サタケ オンラインショップでも購入できます！ <http://www.sataakeshop.com>



ニューヒーローに 集まる期待

清水茂樹

【ナビスコカップとサンフレッチェ期待の若手】

中断期間前は3位につけていたサンフレッチェですが、再開後はキャプテン青山敏弘選手の故障離脱などの影響もあり、9月27日現在で8位に後退。リーグ3連覇は難しくなりました。また、天皇杯もガンバ大阪に破れてしまい、残されたタイトルは、ナビスコカップのみとなってしまいました。

ナビスコカップは次世代のヒーローを占う登竜門ともいえる大会であり、大会を通じて最も活躍した若手選手には「ニューヒーロー賞」が贈られます。サンフレッチェからも高萩洋次郎選手が2010年に受賞、その後の活躍は皆さんご存知の通りです。

今年のサンフレッチェは若手の台頭が目覚ましいですが、中でも皆川佑介選手の活躍が目立ちます。



注目の大型 FW、皆川佑介選手
©2014 S.F.C

高さを活かしたポストプレーや、力強いドリブルと豊富な運動量で攻撃を牽引。今や、絶対的なエースである佐藤寿人選手から先発の座を奪うまでの存在となっています。8月には日本代表にも選出さ

れ、キリンチャレンジカップでは強豪ウルグアイを相手に先発出場を果たしました。まだ経験の浅いところは否めませんが、身長186cmの大きな体は、アジアの大砲と呼ばれた高木琢也氏（現・Vファーレン長崎監督）と重なるものがあり、胸躍らずにはいられません。サンフレッチェの「ニューヒーロー」として更なる活躍を期待したいと思います。

【7月19日 サンフレッチェ広島応援企画】

当日はあいにくの雨模様となりましたが、企画者である青年部、サンフレッチェ関東サポーター有志、広島県東京事務所の方々、そして対戦相手でもある大宮アルディージャ様のご協力をいただき、今年もサンフレッチェ応援企画を実施いたしました。

25組の親子が「選手とハイタッチ」をおこない、憧れの選手たちを身近に感じることができました。試合は佐藤寿人選手の2ゴールなどで前半終わって3対0の楽勝ムードでしたが、追いつかれて3対3のドロー。この日の天気と同じくすっきりとしない結果となってしまいました。



雨天でも熱く応援！
©2014 S.F.C



宙を舞う美技、大技の競演！ けん玉の聖地・廿日市で、W杯開催

けん玉発祥の地として知られる廿日市市で、7月12日・13日、初の「けん玉ワールドカップ」が開催されました。日本をはじめ、アメリカ、カナダ、デンマークなど11カ国110名の選手が参戦。熱気に包まれた会場で、ダイナミックな技が鮮やかに決まる度、大きな歓声と拍手が沸き起こりました。

初代王者に輝いたのは、アメリカのプロ選手、ボンズ・アトロンさん。日本人最高位は、3位入賞の秋元悟さんでした。地元・廿日市市出身の中村有美さんも18位と健闘し、「世界大会が廿日市で行われたことを誇りに感じます。このまちから世界へ羽ばたく選手が出てほしいです」と思いを語りました。

会場では、来場者が参加できるけん玉相撲大会が行われたり、けん玉の販売や無料貸出しも実施。訪れた人々が気軽にけん玉を手に取り、コツコツと軽快な音を響かせながら楽しんでいました。

まちを挙げての開催で、2日間3万8000名もの来場者を集め、大盛況を博したけん玉ワールドカップ。今後も回を重ねるほど、広島はもちろん、日本を盛り上げるイベントに発展することが期待されます。



世界の妙技が、観客の目をくぎ付けに。



廿日市出身の
中村有美さんも躍動！



カープのマーケティング戦略は三世代対象

三宅恭次

ニュース編集委員、カープ広報室長に
直撃インタビュー!!

9月20日(土)の対横浜戦、県人会広報部一行がマツダスタジアムにて観戦しました。今回の観戦・取材企画は県人会の理事でもあるマツダ(株)常務執行役員・東京本社統括の光田稔さんの大変なご尽力によるもので、観戦場所は記者席・放送席の上にあるマツダのスイートルーム。投手ー捕手ーセンターを結ぶそのライン上の絶好の観戦ポジションに皆さん大喜び!編集委員は試合開始前にひと仕事、カープの野平眞広報室長へのインタビュー。質問は事前



前に提出していた項目に従って進められた…と言いたところですが皆さんやや緊張気味。野平室長「どんな質問でもいいですよ」の言葉に、皆さんリラックス。最初の質問は今や“全国区”の話題にな

りつつある「カープ女子」について…、答えは編集委員の予想に反して意外なものでした。

野平室長：カープ女子は広島以外で応援していた女性ファンと捉えていますが、実は球団としては何の仕掛けもしておりません。自然発生的な現象です。ただ、関東圏で応援してくださる女性150人を日頃の感謝の意を込めて招待したことが、マスコミに取り上げられて、どうも「仕掛け」と、とられたようです。しかし、これの宣伝効果は大変大きいものでありました。私たちのマーケットエリアは500万人で関東圏などと比べれば小さいので女性に特化できません。基本戦略はおじいちゃん、おばあちゃんからお孫さんまで三世代に足を運んでもらう、そのための施設であり企画をしています。お陰さまでお年寄りの来場者が増えています。また、障害者の方にもやさしいスタジアムを目指しています。

Q：カープはグッズ類が豊富ですね

野平室長：球界再編問題が起きた頃、旧球場の収容力は小さいし、選手の年俸も上がる中、収益の柱として力を入れ始めました。いまや当時の売り上げの10倍くらいになっています。新しいアイテムを毎月出しておりますし、地場の産業、例えば尾道の帆布などとのコラボレーション商品なども出しています。



Q：スタジアムは赤一色ですね

野平室長：実は西と東では文化の違いというのでしょうか、東京ドームなどではレプリカユニフォームをバッグに入れて、球場で着替えるのですが、甲子園、マツダスタジアムではファンは皆、着てやっ

Q：昨年の大瀬良選手のドラフトでスカウトマンの姿が印象的でした。スカウトの方の仕事ぶりとは？

野平室長：現在7名のスカウトマンが地区を決めて活動しています。大瀬良選手は九州地区担当の田村スカウトが長年見てきました。抽選時、田村スカウトはあることを決めて“ジンクス”でくじを見事引き当てました。その“ジンクス”とは…、企業秘密です。(笑)カープのスカウトは、一貫して「ウソはつかない」「獲るといったら獲る」という方針でまず人間関係を大切にしています。そして今年は獲得できなくても来年は約束を果たす!…ことを心がけてやっています。つまり親や学校の先生からの信頼を得るように努めています。

Q：東京広島県人会への期待、要望があれば…

野平室長：いつも応援していただいております。私たちにとって大きな力になっています。東京広島県人会という大きな団体のため声も大きく、広島にいても聞こえてきて力強く感じており本当に有難いです。引続きご協力、ご支援宜しくお願いします。

ゲームはミコライオが締めて、連敗を3で止める。福井は嬉しい4勝目。広報部一行もここはスタンドと一体になって、応援歌の大合唱!“ワッショイ、ワッショイ”福井、ロサリオのヒーローインタビューを見届け、勝利の余韻に浸りながらスイートルームを後にしました。

なお、マツダの大鶴聡東京総務室長が光田常務と一緒に東京から帰り、広報部一行を待ち受け、お世話を頂きました。改めて感謝申し上げます。





ふるさと広島通信

三宅恭次（中国放送OB）

広島市安佐地区を襲った大規模土砂災害

8月20日未明、広島市安佐北・南区の集中豪雨による大規模土砂災害は発生から一か月を前に、ただ一人行方が分からなかった方の遺体が発見され死者74人、全半壊家屋255戸、避難勧告・指示は最大約15万人の未曾有の大災害になりました。災害発生以降、連日、新聞・テレビのトップニュースとして報じられたため、首都圏在住の皆さんも高い関心をもって読まれ、観られたことと思います。また被災地域に親戚、知人等がおられる方は安否を心配し、連絡を取られたことでしょう。今回の大災害について、気象状況、行政の対応等々はメディアで詳しく報じられているので、ここに記すことは控えますが、以下は私の「体験記」です。

私は被害が大きかった緑井・八木地区まで車で10数分のところ、集中豪雨の原因になった積乱雲が次々と発生する「バックビルディング現象」の線上の所に住んでいます。前日の19日、昼過ぎまでは夏らしい空模様でしたが、夕刻から雷雨予報が出、夜8時頃から激しい雨、それに何より“怖かった”のは「雷鳴と稲妻」です。これでもか！これでもか！！と…、普通、光と音は段々と遠ざかっていくものですが、一向その気配がなく繰り返し光り、鳴り続けました。それも11時過ぎには小康状態になったので、床に就きました。ところが翌20日の2時頃、強烈な雷鳴と雨で起こされました。被害の出た地区では未明の三時間で217ミリの想像を絶する雨が降ったとされており、これによって約70か所で土砂が流れ、八木地区などでは道が川となり、時速100キロで巨大な岩石を含んだ土砂が家を倒し、人命を奪っていきました。と、これは後に知ったことで、その時点では知る由もありませんでした。私の知人は八木地区の一番下に住んでおり、家の被害もなく無事でしたが、豪雨の中、避難を決断するまでは「ここで死ぬのか！」と思ったそうです。

今回は復旧支援のボランティアも広島だけでなく全国各地から駆けつけてきました。また、義援金などの支援活動も各会社、団体、地域で始まりました。22日のマツダスタジアムでの阪神戦ではカープ選手は喪章を付け、応援も鉦、太鼓など鳴り物なしで行われました。

なお、被害の大きかった八木地区は、先祖伝来こ

の地に住む人の間では蛇落地悪谷（じゃらくちあくたに）と、かつて言われていたとも…。大雨が降ると蛇の如く土砂が流れ落ちてくることに備えるようにとの言い伝えのようですが、開発が進むにつれ八木上楽地芦谷→八木になったそうです。こうした昔からの言い伝え、戒め…、今一度、思い起こす必要があるのではないのでしょうか。

今、『広島』ブランドが熱い！

神宮、横浜、東京ドームの左翼席を埋めるカープのレプリカユニフォームを着た赤ヘルを応援する一団、特に今年は若い女性が目立ちます。その多くは広島に縁もゆかりもない人だそうです。「カープ女子」として新聞・テレビに取り上げられ一躍有名になりました。かつて、カープはホーム、ビジターとも観客動員では横浜と最下位争いをする、どちらかというと“不人気球団”でした。

ところが今シーズンはどうでしょう！8月21日現在、マツダスタジアムの観客動員数は23%アップの1試合平均2万5530人。アップ率では12球団トップ、地元以外からも多くの観客を集めています。広島という土地に根差したローカル球団から“全国区”に脱皮しつつあるのです。グッズ類の種類の多さ、センスも良い…、以前はレプリカはスタジアムへ入って着替えるものでしたが、今や街着として皆、着て球場に向かいます。

カープ人気、確かに快進撃を続ける成績、菊池、丸、大瀬良等ヤングカープの活躍があるからですが、私はメディア環境の変化に注目します。地上波全盛時、プロ野球中継の全国放送は99%、ジャイアンツ戦のみでした。ところがここ数年、野球中継は地上波での全国放送は極端に減り、その分、CS、BSに移り、巨人戦だけでなく、ほとんどのゲームが



赤道直火ユニフォームを着用するカープ選手

中継されており、契約さえすれば最頂球団のほぼ全試合が観られる時代です。それにFACEBOOK、ツイッター…等々SNSによる発信により、“カープの魅力”が拡散され、ファン拡大につながっている、私はそう見えています。要は今まで「カープがよく知られていなかった」のです。マーケティングの専門家も「このカープ人気、一過性ではない」とみています。

広島というと原爆ドーム、宮島、牡蠣、もみじまんじゅう、お好み焼き…位しか想起されませんでした。ところが今、他の「広島ブランド」への注目度が上がっています！大和ミュージアム、竹原・尾道の町並み、しまなみ海道サイクリングコース、帝釈峡、神楽…食べ物も菓子博を契機にブレイクしている全国一の生産量を誇るレモンを使ったスイーツ、広島つけ麺、汁なし担々麺、尾道ラーメン、あなごめし、三原のタコ…、有吉弘行、アンガールズなど“広島好き”のタレントの存在も大きい。そして何より、単なる物産館としてだけでなく「広島情報発信基地」としての東京・銀座のTAUの果たす役割が大きい！広島観光キャンペーンのスローガンは「おいしい！」から「泣ける！」に進化しています！！

広島駅前再開発、急ピッチ！（続報）

既に、この欄で度々お伝えしていますが、広島駅の南、北口の再開発が目に見える形で具体的に動き始めました。南口のBブロックではすでに一部で鉄骨が立ち上がっております。Cブロック、あの愛友市場などがあったところですが、ここも更地化が終わり、基礎工事が始まっています。Bは高さ193mの住居棟を中心に2016年6月、Cも166mの住居棟

と商業棟で、やはり2016年12月の竣工予定となっています。また、北口の最後の街区、第五街区が5月、広島テレビ、エネルギー・コミュニケーション、大和ハウスの三社で落札、2019年までに順次竣工する予定です。広島駅の自由通路の一部の工事も始まっています。さらには広島駅ビルの建て替え、市内電車の駅ビル2階への直接乗り入れなど駅周辺の整備計画がこのほどまとまりました。マツダスタジアム周辺の環境整備と相俟って、この10年のうちに、広島駅周辺は大きく変貌します。そこで問題になるのが、現在の商業中心地、紙屋町・八丁堀地区の地盤沈下への懸念です。少子高齢化、人口減少時代を迎え消費のパイが増えることは考えにくく、駅周辺と紙・八地区が共存できる道はあるのか、町全体の問題として今から考えていかなければなりません。

カープ、CS進出へ…

カープは13年振りのシーズン勝ち越しを決めるとともに、二年連続のクライマックスシリーズ進出を決めました。今シーズンは前半、4番に座ったエルドレッドの猛打爆発、驚異的なホームランの量産、それに菊池、丸の急成長、新人の大瀬良、九里、田中の活躍で首位戦線を争っていましたが、鬼門の交流戦で失速しました。しかし、ここで脱落しないのが今年のカープ！マエケンが調子を落としても福井の復活、エルドレッドに替わってロサリオ…、終盤の9月もほぼ5分の成績で乗り切りました。CSは10月11日～、日本シリーズは25日～、頂点に上り詰めて欲しいものです！！



広島駅北口



広島駅北口第五街区



広島駅南口



広島駅南口B地区



広島駅南口C地区



穂高健一著『二十歳の炎』書評 津川博光

近世の日本最大の革命といえば、「明治維新」。芸州広島藩なくして、徳川倒幕はなかった?!しかし、広島藩の動きは知られていない。明治政府が広島浅野藩の史料を封印し、原爆で鯉城と武家屋敷がなくなったからだ。

このたび幕末歴史小説『二十歳の炎』が、広島県大崎上島町出身者により刊行された。作者は4年半の歳月をかけ、広島藩の史料を見つけ出した。それが浅野家の膨大な「藝藩志」であり、原爆前に学校疎開していた修道学園（藩校・学問所）に保存される史料だった。

江戸時代260年間は一度も戦争しなかった。明治時代になると10年に一度は海外で戦争する軍事国家になった。その岐路が戊辰戦争である。小説は第二次征長から2年間の広島藩を描く。学問所の優秀な若者たちが、農商の民を募集し、西洋式軍隊を作りあげた。それが「神機隊」である。大政奉還を成した広島藩は、平和裏に政権移譲ができたとし、藩の主力部隊は鳥羽伏見で戦わなかった。このことで長州藩士が京都で、広島を笑い者にした。

「最も困難な戦場を選び、広島魂を見せてやる。たとえ全員が死のうとも、絶対に後には引かぬ」神機隊は自費で戊辰戦争に出陣する。武具奉行の嫡子の高間省三は、藩きっての俊英だった。福島県・浜通りの戦いで、英雄として戦った。最期は顔面に銃弾を受け即死する。

これは広島県人の誇りや魂の原点が描かれた幕末小説である。私自身この小説に感動し、当時坂本龍馬も暗躍した大崎下島の「御手洗」に行き、歴史的重要な拠点を目の当たりにした。同郷人として幕末の英雄を後世に伝える為にも、是非一読して価値ある一冊である。



書籍『二十歳の炎』（日新報道）を
抽選で10名様にプレゼント！

くわしくは本紙15・16ページをご覧ください。



御手洗の風景



作者コメント・穂高健一

広島県人は、芸州広島藩が徳川倒幕の指導的な存在だった、とは知らなかったでしょう。幕末広島藩は浅野家だった、と認識していない人もいます。せいぜい毛利元就が広島の出だ、と主張するくらい。「長州藩は、倒幕の主役ではなかった」「えっ、うそ」と驚く人は多いでしょう。

禁門の変で、長州藩が朝敵になったのは歴史的事実です。かれらは京都に入れば新撰組、会津・桑名藩士に問答無用で殺されました。大政奉還では蚊帳

の外。小御所会議の王政復古の号令で、明治新政府ができるまで、長州は倒幕に表立って関わっていないのです。なのに、薩長倒幕だという。

実際は、薩摩と広島藩が倒幕を主体に推し進めてきました。つまり、「薩芸（さつげい）による倒幕」

です。経済は政治を動かします。大崎下島の御手洗港（現在の呉市）を介して、この二藩は経済的な深いつながりがあったのです。「幕府と朝廷の2カ所から、政策が出るような国家はつぶれてしまう。こんな幕府ではダメだ」と薩芸が倒幕に歩調を合わせたのです。

「二十歳の炎」では詳しく展開しています。「薩芸倒幕」を「薩長倒幕」にすり替え、偽りの歴史を教えたのは、薩長土肥の明治政府です。

長州には、吉田松陰門下生の桂小五郎、高杉晋作などがいます。広島藩はどうでしょう。広島が生み出した頼山陽の皇国思想を受け継いだ英雄たちがたくさんいるのです。とくに高間省三は、明治26年発行の『軍人必読 忠勇亀鑑』で、日本武尊や加藤清正、徳川家康らとともに英雄だとして、数ページにわたり記載されています。広島護国神社には、省三をしのぶ女性の和歌3首が奉納されています。「二十歳の炎」には、省三と彼女との悲哀も組み込んでいます。

高間省三らの純真な生き方を知れば、悲しくもあ

ります。と同時に、東京在住の広島県人として、郷土の誇りを感じるでしょう。まさに広島カープを見つめるように、熱く燃えるものがあるはずです。

県人会の方々には、広島に帰った折り、いちどは御手洗を訪ねてみてください。自分の目と肌で、幕末広島藩の重要な役割を確認してください。きっと広島人の誇りを感じるでしょう。

著者・穂高健一氏プロフィール

広島県・大崎上島出身で、中央大学・経済学部卒業。日本ペンクラブ、日本文藝家協会、日本山岳会、日本写真協会に所属する。活動は幅広い。小説の受賞歴は地上文学賞『千年杉』（家の光社）、いさり火文学賞『潮流』（北海道新聞社）など、8つの賞がある。ジャンルは純文学、推理、歴史小説。大手カルチャーでは「文学賞を目指す小説講座」などの講師を行う。小説3.11『海は憎まず』、幕末歴史小説『二十歳の炎』と2年連続で長編の書下ろしを発刊。「作家として好奇心が強く、筆は割に早いほうです」と特徴を語る。



崇徳学園関東支部同窓会 津川博光

創立139年の歴史と伝統ある崇徳学園は平成26年7月5日（土）ホテル機山館（本郷3丁目）で27回目の関東支部同窓会総会を盛大に開催した。

総会は3部構成で、関東支部黒川会長（S33年卒）開会の辞を皮切りに、第1部で年間行事計画などを決議した後、第2部は元三菱総研主席でエコノミストでもある同学園理事長高橋乗宣氏（S33年卒）が、30分に亘り、現在の「グローバル大乱戦」の厳しい時代認識から日本経済の展望について講演。菌に衣を着せぬ核心を突く論評で、出席者約50名を魅了した。第3部は、懇親会に移りサクソフォン奏者の山川寛子さんの演奏や抽選会などで華やいだうちに閉会となった。

夏を越した崇徳学園の話題はやはりスポーツ。延長50回という前代未聞の歴史的な記録を塗替え全国的に有名となった軟式野球部は記憶に新しいところ。また、千葉や東京を会場とした南関東インターハイには35℃を越す暑さの中、7競技に出場して柔道100kg超級とボクシングウェルター級で優勝した。共に優勝続きで、柔道の香川選手は昨年の団体優勝に続き、ボクシング原田選手は国体・選抜に続いて3冠を達成した。どのクラブも“崇徳の勢い”に乗りまたその勢いを創り出しつつ、秋の長崎国体に向けてはすでに6競技への出場を決め、広島県少年チームの中心として県勢力を盛り立てている。



ゴルフクラブ

世話人／山本武司

県人会ゴルフクラブ第38回例会が、5月21日(水)京葉カントリークラブで開催されました。当日は朝から大雨で、中止?と危ぶまれましたが、参加者はキャンセルもなく全員ゴルフ場に集合。雨の中のゴルフは取りやめたらとの意見もあったのですが、どちらでも自由という説明があり、35名の方が参加することに。天気予報によると数時間で小雨になるとの事で、予定を遅らせてスタート。雨の中で足元は悪く、打てば水飛沫、というコンディションの中でのプレーとなりました。

しかし悪天候にも拘らず、参加された皆さんは元気に最後までプレーされました。優勝は金尾健介さんでした。その後、表彰式・パーティーが催され、

食事をしながら語らい楽しい時を過ごしました。無事パーティーも終わり、皆様が帰路につかれる頃には雨も止んでいました。



青年部だより

片島年規

青年部では、定期的にイベントを開催しています。直近の活動を3つご報告させていただきます。カープ観戦(7月神宮球場、8月東京ドーム)、バーベキュー(9月若洲海浜公園)とそれぞれ、盛り上がりました。

カープ観戦は久しぶりの優勝に向けて応援にも熱が入りました。特に8月東京ドーム観戦の前に、タレント山田雅人さんの「かたり」の世界、カープ優勝物語+カープOBの高橋建さんの講演会があり興味深い話などを伺い大盛況でした。試合結果ですが神宮球場、東京ドーム2試合とも残念な結果になってしまいました。



バーベキューですが、40人集まり大いに盛り上がりました。初めての参加者も半数近くいました。Web経由や口コミによって毎回、初参加の方が増えており、少しずつネットワークが広がりつつあります。

今回は、6月の開催が延期されたソフトボール大会を検討・調整しております。11月にサンフレッチェ観戦、12月には忘年会を予定しておりますので、今後のご案内を確認いただければ幸いです。



県人会フォーラム「東京オリンピック」

高田雅宏

去る6月27日(金)、港区芝浦の広島大学東京オフィスにて、恒例の県人会フォーラムが開催されました。今回は首都大学東京教授かつ日本オリンピックアカデミー理事を務める舩本直文さんを講師に迎え、「1964年東京から2020 TOKYOへ:オリンピック・レガシーの継承と飛翔」と題したご講演を頂きました。

前回1964年の東京オリンピックが残した多数の

レガシー(遺産)や、6年後に迎える次の東京オリンピック

に向け私たちがどのような気持ちで取り組むべきかなど、オリンピックにまつわるクイズも交え、終始に渡り大変興味深いお話を頂きました。また講演後には交流会が持たれ、参加者の皆さんは講師を囲んだ楽しいひとときを過ごしました。



舩本直文さん



同好会
Report

同好会だより

初心者の方も、経験豊かな方も、ふるってご参加ください。

お問い合わせ

県人会事務局

電話／03-3591-0028 FAX／03-5511-8803



テニス同好会

世話人／藤瀬活子

軽井沢での夏の思い出

この度は、初めて軽井沢でのテニス合宿に参加させていただきました。東京から車で2時間半くらい。妻と3歳、2歳の息子達も一緒に混せて頂きました。軽井沢独特の清涼感漂う空気と、柔らかな木陰を落とす木々に囲まれたテニスコートで、それはそれは優雅にテニスを楽しみました。と書きたかったところですが、若干の修正が必要かもしれません。

実際は、コートに到着するとウォームアップもそこそこにすぐに気合十分のミックスダブルスの試合が始まりました。試合が終わるとすぐペアを組み替えて、どんどん次の試合を進めていきます。スコアもちゃんと記録します。合間の貴重な休憩時間も、私が小さい子供を連れて行っているものだから、

コート脇の林の中で昆虫採集の相手をしなければなりません。でもメンバーの皆さんのおかげで、和気あいあいと充実した時間を過ごせました。この場をお借りしてお礼申し上げます。（寺口信介）



（撮影：橋高淑夫さん）



陶芸同好会

世話人／児玉裕司

無心になって粘土と遊び、うつわを作る！

そして、良きお仲間との語らい。

日本の代表的な文化のひとつ“やきもの”に触れ

てみよう、年6回、「テーマ」を設けて作陶会を催しています。陶芸の魅力は出来上がった作品が使えるということでしょう



か。本年8月のテーマは「茄子や蕪といった型紙で小鉢」を作ると共に、「電動ロクロ」にチャレンジしました！！

作陶後には懇親会を行っています。無心になって作品を作り上げた後の一杯は格別。素敵なお仲間との語らいは郷土広島の話から芸術文化まで多岐に渡り、親睦と交流の場として大いに盛り上がります。次回は10月下旬を予定しています。皆さまのご参加と応援をお願いいたします。



学郷会
Report

第19回学郷会

重本ゆり

2001年から始まった「学郷会」は、今年で19回目を数え、7月24日（木）18:30より①福富裕之政策課長「広島県の環境行政について」②大山利恵政策課長「広島企業の最近のトピックスについて」の2テーマで約30名が参加し開催されました。

「学郷会」は、広島県東京事務所の職員の方を講師にお迎えして、東京広島県人会幹事が郷土広島を学ぼうという目的で始まった意見交換や助言する双

方向の勉強会です。

今回、広島県の最新の環境行政の取り組みや、広島の企業の動向を知ることができ大変有意義でした。東京広島県人会が広島県の情報収集・発信拠点である広島県東京事務所と連携して郷土広島とのパイプ役となり、ふるさとなにか恩返ししたいと改めて感じたよい機会でした。次回の「学郷会」も期待しております。





「没後400年 古田織部展」 広島の上田宗箇流が特別協力!

緒方 静子

古田織部は、千利休の高弟にして武将茶人。慶長時代、天下一茶の湯名人として、利休亡き後の茶の湯界に、大胆奇抜な創意と斬新な造形美を発揮し、日本文化史上最も光り輝く時代をリードしました(1544～1615)。

「没後400年 古田織部展」では、織部ゆかりの文化財を展示し、南蛮文化が伝わった激動の時代に生き、新たな文化の創造に邁進した織部の人物像と創意に迫ります。さらに、織部を支持した時代と人々のエネルギーの魅力を解き明かします。

広島で武家茶道を伝えてきた上田宗箇は古田織部の高弟でした。茶室・数寄屋建築の第一人者、中村昌夫先生(京都工芸繊維大学名誉教授)は、上田宗箇と古田織部には美意識と武人的



朝鮮唐津一重口水指 唐津焼
(北村美術館蔵)

な迫力が共通していて、「上田宗箇流には織部の茶が色濃く伝えられてきました」と強調しています。こうした歴史から今回の展覧会では、上田宗箇流が特別協力をしています。

NHKやNHKプロモーション、三次市の奥田元宋・小由女美術館、滋賀県守山市の佐川美術館などの主催で、それぞれ開催される展覧会の日程は、以下の通りです。

【東京展】

会場：松屋銀座8階イベントスクエア

会期：2014年12月30日(火)～2015年1月19日(月)

【広島展】

会場：奥田元宋・小由女美術館 三次市

(中国横断自動車道尾道松江線全線開通に寄せて)

会期：2015年3月2日(月)～4月12日(日)

【滋賀展】

会場：佐川美術館 滋賀県守山市

会期：2015年10月10日(土)～11月23日(月・祝)



東京ふるさと就職情報コーナー

広島県商工労働局産業人材課

「広島で働きたい!」東京をはじめ県外在住の皆様の声にお応えするため、広島県商工労働局産業人材課では皆様のUIターン就職を応援しています。

主なものを御紹介しますと、まずは、東京事務所内にある無料職業紹介所「東京ふるさと就職情報コーナー」。専門のアドバイザーが個別相談に応じ、求人情報の提供や職業紹介により、転職活動をバックアップします。昨年度は160人の方に御利用いただきました。

平日に時間がとれない方には、毎月第3日曜日に銀座「TAU」で開催中の「ひろしまUIターン相談会」がお勧め。広島の人材紹介会社が上京して直接相談に応じます。毎回好評で、短期間で予約がいっぱいになることも。是非、県のHPで事前予約してください。

自宅から広島の求人情報を知りたい方には、求人・求職情報サイト「ひろしまジョブサイト」をご用意。登録すれば、希望にマッチする求人情報が届くシステム。もちろん、県内企業様には、求人情報の掲載により、人材確保ツールとして御活用いただけます。

11月14日には、大学生対象の「広島県企業若手社員と大学生の交流会」を都内で開催予定。大学生の皆さん、県内企業で働く醍醐味を味わうチャンスです!奮ってご参加ください。

その他、UIターン就職に関する各種施策を展開中ですので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

広島県商工労働局産業人材課 TEL 082-513-3420



「東京ふるさと就職情報コーナー」

対応時間:

月曜～金曜12時～16時

相談は原則予約制

(TEL 03-3580-0851)

「ひろしまジョブサイト」

県内企業登録社数:

1,000件以上

ひろしまジョブサイト

検索



6年前の晩秋である。東京・田町の会場に100人余りが集まった。県人会がカープOBの元捕手・長谷川稔さんと元球団職員の渡部英之さんをお招きし、チーム草創期の苦労話などを聴く会だった。心にしみた。

1950年に誕生したカープは、カネも人も用具も足らなかった。市民のカンパ「樽募金」は有名だ。街で声を張り上げて選手の名も売り込んだ。「見とってつかあさいや。今シーズンはやりますけえのう。こいつのシュートは誰も打てん」。売り込みがオーバーになるのはご愛敬。新人を紹介して「高校時代、打率3割3分の強打者」と言っても、県予選で3打数1安打にすぎなかったりした。

体づくりに必要な肉も貴重品だ。たまにすき焼きになろうものなら、横を向く時にはハシで肉を押さなければならなかった。

学校のグラウンドでも試合をした。外野フェンス代わりに縄を張る。するとファンは、カープ選手の大飛球は縄を押し出してホームランにしようとし、相手が打てば引っ張って入れないようにする。このため、手を触れさせないようコールタールを試合前に縄に塗ったそうだ。今のマツダスタジアムの壮観、華やかな「カープ女子」が彩るスタンドからは想像

もつかない。

私が物心ついた時は市民球場があり、小学4年生の夏休み、広島鉄道管理局でタイプを打っていた姉に連れられ初めてナイターを見た。ジャイアンツ戦である。姉のお目当ては長嶋だったかもしれない。席は三塁側で、眼下に精悍な野生動物のごとき長嶋がいた。

優勝など思いもしない低迷のシーズンを重ねた。球場のヤジも忘れがたい。名手をうたわれた遊撃手がポロリとエラーをした。すかさずスタンドからヤジ。「おっどりゃあ三村！ 何しようるんなら！ わりや遅うまで流川で飲んどったのう。わしゃ見たで！」

75年のリーグ初優勝の時は駆け出しの警察担当記者として大分におり、カーラジオの中継で泣いた。やがて来て去る黄金期。また低迷、と時は巡って今、カープはあか抜けしたチームになったように思う。

遠き にありて故郷からの便りを開くようにカープの試合を見る。東京の幸せである。そして古き良き日々のカープに思い重ねながら観戦する悦楽も、古きファンの特権だ。

思えば、なぜかしら心温まるヤジが懐かしく、スタンドで時折耳を澄ますが、あの「おっどりゃあ！」はもう聞こえない。

＼ハガキで当たる！ 読者限定、スペシャルプレゼント／

A (株)サタケ GABAライス製品セット 20名様
無洗米GABAライス(1kg)&バックご飯GABA楽メシ(2種)

B 書籍「二十歳の炎」(穂高健一著) 5名様

C 中国醸造(株) 新商品「カープ梅酒」6本 6名様
カープ女子がプロデュースした広島カープ公認の梅酒(720ml×6本)。
中国醸造ホームページ「やすらぎ発酵房」(<http://www.hakkobo.jp/>)や
広島アンテナショップ「TAU」でご購入いただけます。

A



B



C



応募方法

官製ハガキに、「氏名・住所・電話番号・ご希望の商品名(A、B、Cのいずれか)」をご記入の上、下記までお送りください。

〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー 22F

東京広島県人会事務局「ニュースプレゼント」係

応募締切／2014年11月30日(当日消印有効)

※厳正なる抽選の上、プレゼントの発送をもって当選者の発表に代えさせていただきます。

※ご応募者の個人情報は、プレゼントの発送目的以外では一切使用いたしません。

個人情報保護のため、情報を非開示としております。



東京広島県人会の 会員皆様の広場です

好澤一穂

ぜひ県人会のホームページにもアクセスして下さい。
首都圏在住の広島県人の方々、広島にご縁のある
方々の広場です。催しのご案内、活動のご紹介等

をしています。ホームページは「東京広島県人会」
で検索をしていただければ、直ぐにヒットします。

●東京広島県人会ホームページ <http://hiroken.gr.jp/>

デジタル投稿コーナー

東京広島県人会では、東京広島県人会ホームページ上に会員の皆様から寄稿して頂いた内容を掲載するデジタル投稿コーナーを開設しています。紀行文、随筆、詩歌、俳句、デジタル写真等何でも結構です。下記メールアドレスに送付していただければ、県人会ホームページ管理者がホームページに掲載いたします。皆様の奮っての参加をお待ちしております。

●送付先メールアドレス toko@hiroken.gr.jp

プレゼントコーナーが復活します

長らくお休みしておりましたプレゼントコーナーが復活いたします。皆様がプレゼント申し込みしたくなるような素敵な内容になっております。プレゼントの内容は、広島県ガイドブック「泣ける!広島県」、「二十歳の炎」穂高健一著謹呈本(5名様)、等です。是非、県人会ホームページからプレゼントコーナーへ!!申し込み、お待ちしております。

facebook ページも開設してます

東京広島県人会 facebook ページも開設しております。このページは facebook アカウントがなくても誰でも見ることが出来ます。県人会ホームページが更新されたら facebook ページ上に「東京広島県人会からのお知らせ」が投稿されます。これなら県人会最新情報の見落としはなくなりますね。

●東京広島県人会 facebook <https://www.facebook.com/hiroshimajaken>



編集後記

◆過去私達は多くの社会変動の中で生きてきました。明治維新、関東大震災、太平洋戦争・原爆、高度経済成長、石油ショック、バブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災…そして今年8月我が故郷広島を襲った悲惨な土砂災害。私達は歴史的教訓を忘れてはいけませんし、郷土史をもっと学ばなくてはならないと痛感しました。

◆社会変動全ての経済エポックを体験し、経営苦難を乗り越えてきた100年企業に学ぶという新企画の取材の中で(株)サタケ・佐竹利子代表の「重役を“十役”=10の役割と考え身の回りの仕事を率先垂範し自分の眼でみて判断する」というお言葉はとても印象的で感銘を受けました。

◆原爆被爆から69年。原爆の歴史的教訓を風化させずに後世に伝える取組みが重要であることを決して忘れてはなりません。日本が平和主義のもとで69年間戦争をしなかった事実を重く受け止めて、『二十歳の炎』にあるように幕末の広島藩が平和主義を求め明治維新に大きな役割を果たしていた事を学び、平和国家の道を歩み続けるよう、広島から発信する役割を改めて感じています。(重本ゆり)

東京広島県人会ニュース 第49号

第16巻 第2号 平成26年(2014年)10月15日発行

編集人/漆谷恵康

編集委員/緒方静子、好澤一穂、清水茂樹、津川博光

印刷/株式会社

発行人/松島和夫、重本ゆり

発行所/東京広島県人会

〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-2-8

虎ノ門琴平タワー 22階

電話 03-3591-0028

